[第１号報告]

1-1. 2015 年度事業計画書

１．概況：重点活動

２．会員の異動予想

３．会議等に関する事項

４．実施事業１：調査研究活動（定款第４条１項１号および２号）

５．実施事業２：人材育成（定款第４条１項４号）

６．実施事業３：学術講習会の開催（定款第４条１項１号および ２号）

７．実施事業４：会誌の刊行（定款第４条１項１号および２号）

８．実施事業５：論文誌・学術図書等の刊行（定款第４条１項１号および２号）

９．実施事業６：標準化活動（定款第４条１項３号）

10. 実施事業７：国際活動（定款第４条１項５号および２号）

11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款４条１項６号）

12. 法人運営

（参考）情報処理学会　中長期計画

2015年度 事業計画書

1．概況および重点活動

少子高齢化，IT技術のコモディティー化，グローバル競争の激化などの流れは続いており，多くの学協会は会員数や収入の継続的減少に悩んでいる。一方で，ICT の急速な進化が社会に対して大きなインパクトを与えるようになっており，情報処理分野における技術イノベーションをリードする立場として，本学会の果たすべき役割はますます広がっている。

このような環境の中で，学会価値の向上と会員向けサービスの向上を図り，会員数を増加させて安定した運営を行うためには，若い世代の会員を増やしてその活動を活性化させていくことが重要となる。これまでに学生向けの無料トライアル会員制度を試行し会員数の減少を食い止めることができたものの，会員増を確実なものにしていくためには，会員制度の拡充や若い世代が関心を持つサービスの提供など，さらなる努力が必要となる。また，学会から疎遠になった実務家やITプロフェッショナルに対するアプローチも重要となる。

会長交代の年度となる本年度はこれまで推進してきた学会の抜本的改革を継続し，中長期戦略の策定，若手アイデアの実現と小中高生にまで範囲を広げた会員制度の拡充，研究会による諸活動の推進と社会への提言・情報発信，グローバル化，高度IT人材の資格制度の強化，学会情報システムのリニューアル及び会員活動のためのプラットフォーム化，会員サービスの拡充において，下記を中心とする施策を実施する。また，企業や業界団体のイベントへの共催・後援や企画協力などを今まで以上に積極的に行い，学術と産業の接点として情報処理技術を通して社会の発展を目指す。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で，学会を安定的に運営しつつ，これを発展させるためには，学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ，新しいアイデアを積極的に取り入れて，学会を柔軟に改革できる運営体制が必要である。このため，下記の施策を実施する。

① 若い世代の柔軟な発想を学会運営に取り込むべく，「新世代理事」を中心とした新世代企画委員会活動を引き続き推進する。

②「長期戦略理事」を中心に，新しい会員サービス，学会のビジネスモデルや会誌の出版形態についての中長期戦略を策定し，これを適宜見直しながら着実に実施する。

③ 会員の真のニーズをタイムリーに把握できる情報基盤の整備を推進する。

④ 第三者機関であるアドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。

⑤ 財務状況の見える化を図り，各事業や情報基盤整備の投資効率を意識して運営する。

1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し，新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。

② 2012年度に導入した「学生無料トライアル会員制度（試行）」を拡充し，拠点校に限定せずに小学生までがオープンに入会申込ができるかたちで「ジュニア会員制度（試行）」として実施する。また，2016年度から「ジュニア会員制度」の本格運用を目指す。

③ 研究会や支部などの協力も得て，学生や若手研究者のためのイベントを企画開催する。

1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

① 学会のコアの活動として，研究会による諸活動を推進する。

(a) 研究会活動を通じた学生会員獲得

(b) 論文・研究会資料におけるマルチメディアコンテンツ(ビデオ動画や音素材等)収録に向けた検討

(C) 研究会の活動の中心となる委員に女性の積極的な登用を推進する。

② 調査研究運営委員会，政策提言委員会，若手研究者の会が連携し，

(a) 長期的な研究のグランドデザインやロードマップに関する議論の継続

(b) 国の政策および方針に関する各研究分野の積極的な提言活動の推進などを通じて，国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指す。

③ 積立資金によるプロジェクトを募集し，個々の研究会活動を超えて，領域または調査研究全体による国際会議支援，女性研究者支援の活動を活性化する。

④ 現在の調査研究活動における研究会やシンポジウムの機会を活用し，異なる領域を統合する新たな研究領域開拓のための取り組み，および，それらを社会へ発信する活動を推進する。

1.4 グローバル化

① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下，JIP）のインパクトファクタ取得について，再申請に向けて諸対応を促進し citation の増を図る。CVA 等のトランザクションについてもインパクトファクタの取得を目指す。

② 査読プロセスならびに査読管理システムの国際化についても検討する。査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにすることの必要性と，それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ，PRMS から国際的に広く使われている商用査読管理システムへの移行を進める。

③ 研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催するとともに，海外学協会との連携を推進する。

④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ，これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討し，これを実施する。

⑤ 日本に留学生を多く輩出している中国や他のアジア地域などの国々との連携の機会を検討し，これを実施する。

1.5 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化

① 高度 IT 人材資格制度について，個人認証制度の本格運用を進めると共に，企業認定の制度についても本格運用を開始する。

② ソフトウエアジャパン，デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，IT フォーラムなどにより，実務家・IT プロフェッショナルの育成に貢献するとともに，会員増，収入増を図る。

③ 情報処理推進機構(IPA)，情報サービス産業協会(JISA)，日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)，電子情報技術産業協会（JEITA）などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体や企業との連携をさらに深め，共同イベントの開催などを推進して，会員増に貢献する。

1.6 教育活動の充実

初等中等教育，専門学校そして大学などにおける情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施する。

① 情報教育カリキュラムの策定

② アクレディテーション（教育機関における技術者教育プログラムの認定。JABEE からの委託）

③ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催

④ 大学入試における「情報」科目提言，大学情報入試全国模擬試験実施

⑤ 教育シンポジウム・コンテストの運営と後援

1.7 会員サービスおよび広報の充実

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための諸施策を企画し，会員の目線で，魅力ある学会作りを目指し，必要に応じて会員制度の見直しも検討する。具体的には下記の項目を実施する。

① 会員の真のニーズをタイムリーに把握するために構築した CRM 基盤「INPACT(Investigate Personal Activity) システム」を活用し，会員サービスの向上を図り，柔軟なサービス運営を提供する。

② オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進，マルチメディアコンテンツ配信などの新しいサービス提供形態を推進する。

③ 昨年度，提携したドワンゴ社/ニワンゴ社のニコニコ動画等を活用し，学術コンテンツ（動画や論文など）の新たな流通プラットフォーム構築を推進する。

1.8 学会システムの拡充

現マネジメンシステムが構築されてから，既に 8 年間がたち，老朽化した HW/SW への対応が急務となっている。更に今回 1.2 の②で述べた 2016 年度から本格運用を目指す「ジュニア会員制度」に対応したマネジメントシステムの拡充を行う必要がある。具体的には以下の施策を行うとともに，さらなる ROI を意識した周辺システムまでを含めたマネジメントシステムの刷新を検討・実施する。

① マネジメントシステムのデータセンタの VM への移行による，HW 障害のリスクに関する対応

② マネジメントシステムの最新の OS/MW への移行による，種々の SW の問題点への対応

③ ジュニア会員制度に対応する会員制度の拡充への対応

2．会員数について

下記の取り組みを実施し，会員数の増加を目指す。

・将来の正会員の母体となる学生会員数を増やすため，ジュニア会員制度（試行）を中心に支部や研究会と連携して取り組む。支部の協力を得て学生のコミュニティを作り，自発的参加を促す。

・各活動において学会の価値向上に取り組み，新規会員の獲得に努める。

会員種別	会員数		増減数	備考：2015 年度の異動内訳				
	① 2015 年度末	② 2014 年度末	①－②	入会		退会		資格喪失
名誉会員	38	36	2	2	正会員から異動			
正会員	15,844	16,111	−267	500 760	学生会員から異動	1,050 2	名誉会員に異動	475
学生会員	4,701	3,477	1,224	1,400 1,200	ジュニア会員	600 760	正会員に異動	16
個人会員　計	20,583	19,624	959	3,862		2,412		491
賛助会員 （口数）	219 (525)	223 (510)	−4 (15)	11 (30)		15 (15)		

＊2015 年度期末正会員数には終身会員 499 名を含み，学生会員数にはジュニア会員制度適用の 1,450 名を含む。

3．会議等に関する事項

下記の会議を計画する。TV 会議システム等を活用し効率的な運用に努める。

3.1　2015 年度通常総会

2015 年 6 月 3 日（水）に，学士会館（東京都千代田区）で開催する。同時に賛助会員向けイベントを計画する。

3.2　理事会

年度内に 6 回以上開催し，学会活動に関する諸事項を審議する。

3.3　各種委員会

必要に応じて開催し，所轄活動に関する諸事項を審議する。

4．実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学会のコアの活動として重点的に取組み，関連諸活動とも連携して活動の拡大を目指す。
具体的には下記の取り組みを推進する。

① 長期的な研究のグランドデザインや 2013 年度に定めた「情報学分野の科学・夢ロードマップ 2014」に添って，情報処理分野における学術大型研究計画の企画・立案の検討を継続する。
② 国の政策や方針に関する各研究分野の提言活動を推進する。
③ 日本の情報処理学会として必要なグローバル化のための議論を継続する。国際会議を積極的に主催，共催し財務の健全化に努める。
④ 研究会活動の国際化，特に，海外学会との共同シンポジウム，合同ワークショップを積極的に開催し，国際的かつ継続的な“研究コミュニティーの形成”を行い，新しい研究，技術の国際的発信を継続的に行う研究活動環境を構築する。
⑤ 欧米に加えて，中国や他のアジア諸国との研究会活動の交流を推進し，アジアからの留学生の本学会，研究会参加を奨励し，将来にわたる継続的な調査研究活動の交流・共有環境を構築する。
⑥ 学生・若手に向けた積極的な取り組みにより，将来を担う学生・若手研究者の育成を図る。
⑦ 調査研究積立資産を活用し，個々の研究会活動を超えて，領域単位のプロジェクト，若手表彰，国際化の推進など調査研究全体の活動も積極的に展開する。
⑧ 若手の意見を吸上げ，研究会の動画配信など新しい取組にチャレンジする。
その他，必要に応じて，研究会組織の見直し，研究発表会への新たな参加方法の検討などを行う。

4.1　研究発表会　　［所掌：調査研究運営委員会］

39研究会，3研究グループ（詳細は p. 89「付表1」参照）により，160回程度（前年度155回）の研究発表会を開催する。

4.2　シンポジウム・ワークショップ等　　［所掌：調査研究運営委員会］

シンポジウム・ワークショップ等については 25 回の開催を計画する（詳細は p. 90「付表 2」参照）。

4.3　表彰　　［所掌：各選奨等委員会］

優れた研究発表および業績等に対して，山下記念研究賞，長尾真記念特別賞，喜安記念業績賞，若手奨励賞などを贈呈する。また，企業に賞のスポンサーを依頼する。

5．実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施する。

5.1 情報教育カリキュラムの策定　［所掌：情報処理教育委員会］

(1) 情報カリキュラム標準（J07）のフォローアップ

現行のカリキュラム標準J07の普及・改訂，教科書など教材の整備・提供・普及などを引き続き行い，その中で浮かび上がった課題やその対策を次期カリキュラム標準の検討に反映させる。

(2) 次期カリキュラム標準J17の策定にむけた作業

次期カリキュラム標準J17の策定にむけて，CS2013やIS2010などを参照しながら，検討作業を進める。ワーキンググループ活動や公開イベントを通した議論によりカリキュラム策定を具体化させる。

(3) 初中等教育での情報教育支援

国の情報教育の方向及び内容に関して，他学協会とも連携して意見書や試作学習指導要領の作成公表などの提言を行う。また，「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)と連携して，初中等教育現場の情報分野の教員の養成支援，教材開発や出張授業などを通じて，教育現場支援をさらに推進する。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定）　［所掌：情報処理教育委員会］

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため，日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続する。関連して，認定校・受審予定校のコミュニティの育成，専門職大学院認証評価などの活動支援を行う。また，JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め，ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進する。

5.3 高度IT人材資格制度　［所掌：高度IT人材資格検討WG，個人認証試行委員会，企業認定制度設計WG］

高度IT人材資格「認定情報技術者」の個人認証については，2014年度に開始した本格運用を引き続き進める。資格更新に必要なCPDについても検討を進める。企業認定については，2014年度に行った試行に基づいて本格運用を開始する。また，技術士会等関連組織との連携強化を図る。

5.4 教員免許更新講習の開催　［所掌：情報処理教育委員会］

2014年度に開始した高校の教科「情報」に関する教員免許更新講習を引き続き実施する。東京に加えて，関西でも開催する。本会が講習を実施することで，「情報」に関する更新講習不足を補うとともに，高校の情報科教員の養成を支援する。

5.5 その他　［所掌：情報処理教育委員会］

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営する。高校教科「情報」に関するシンポジウムは東京と関西で開催する。また，若い世代への本会のプレゼンスの向上をめざして，大学生，高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を推進する。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

各大学における入試科目に「情報」の採用を推進する情報入試WGおよび情報入試研究会，「情報」を入試科目として採用している大学，「情報」の教員等と緊密に連携して，大学情報入試の全国規模模擬試験を実施する。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め，初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために，学会誌に「ぺた語義」などの教育関連連載記事を企画・編集する。

(4) 表彰，その他

① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため，優秀教育賞・教材賞を贈呈する。

② 教材，講義素材，講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行う。

③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討する。

6．実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）

学術講習会は，学会の重要な収入源であるとともに，学生も含めた若手研究者の活動の場ならびに企業のIT技術者の情報交換の場である。2015年度は下記の方針で取り組む。

・全国大会と情報科学技術フォーラム（FIT）は，前年度と同様に取り組む。

・企業のIT技術者向けの連続セミナー，短期集中セミナーなどの活動を活性化する。

・イベント周知のため，学会誌へ定期的に記事を掲載することを検討すると共に，高度IT人材資格「認定情報技術者」への通知を行う。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第78回全国大会　［所掌：全国大会組織委員会］

会期：2016年3月（予定），会場：慶應義塾大学

参加者見込：約3,200名（前年度3,610名）

(2) 第14回情報科学技術フォーラム（FIT2015）　［所掌：FIT推進委員会］

会期：2015年9月15日(火)～17日(木)，会場：愛媛大学

参加者見込：約1,600名（前年度1,223名）

(3) 表彰　［所掌：全国大会組織委員会］

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈する。

6.2 セミナー／その他イベント

(1) 連続セミナー2015　［所掌：セミナー推進委員会］

産業界向けのイベントとして以下を企画，開催する。参加者数見込：延900名（遠隔含む）。

また，前年度に引続き，遠隔会場（関西）中継を実施する。ニコニコ生放送とアーカイブについても検討する。

全体テーマ　「イノベーション最前線：押し寄せる変革の本質を探る」

第1回（6月上旬）　「クラウド基盤技術の最新動向」

第2回（7月中旬）　「ものづくりとICTの新たな統合～Industrie4.0を切る～」

第3回（9月下旬）　「次世代ロボット技術の最新動向」

第4回（10月中旬）　「人工知能/Deep Learning」

第5回（11月上旬）　「IoTとセキュリティ」

第6回（12月中旬）　「人間中心インタフェース」

(2) 短期集中セミナー　［所掌：セミナー推進委員会］

学生・若手開発者向けの 1 日開催のセミナーを開催する。情報規格調査会と連携，並びに関連団体と共催し実務者向けのイベントセミナーを開催する。

(3) ソフトウエアジャパン 2016　［所掌：IT フォーラム推進委員会］

会期：2016 年 2 月 4 日，会場：一橋大学一橋講堂，参加者数見込：500 名

① プログラムの充実，スポンサーの拡大などにより，運営の改善を図る。

② ITフォーラム，デジタルプラクティスとの連携によりシナジー強化を図る。

③ ソフトウェアジャパンアワードの選定を行い表彰する。

(4) プログラミング・シンポジウム　［所掌：事業運営委員会］

以下3つのシンポジウムを開催する。

① 夏のプログラミング・シンポジウム　会期：2015年9月頃予定　合宿形式

② 情報科学若手の会　会期：2015年9月頃予定　合宿形式

③ 第57回プログラミング・シンポジウム　会期：2016年1月頃予定　合宿形式

6.3 ITフォーラム　［所掌：ITフォーラム推進委員会］

① 次の 7 つのフォーラムで活動する。
サービスサイエンス／ユニバーサルデザイン協創／IT ダイバーシティ（見直し中）／
高度 IT 人材育成／コンタクトセンター／IT 未来人材／ビッグデータ活用実務

② 年1回の成果報告と評価を実施し，それに基づくフォーラム組み替えの仕組みを確立し，新たなフォーラムの立ち上げを検討する。

③ 戦略的な広報活動とアウト・リーチする仕組みの確立のため，情報処理推進機構（IPA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），情報サービス産業協会（JISA），電子情報技術産業協会（JEITA）など，ターゲットとする関連コミュニティとの連携を強化する。また，ITプロフェッショナルが学会に何を期待するのかを，アンケート等により調査する。

④ デジタルプラクティス編集委員会，IT プロフェッショナル委員会との連携を強化して，IT プロフェッショナルに魅力のあるソサイエティに向けて検討する。

6.4 コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局　［所掌：「あから」強化推進委員会］

トッププロ棋士との対局を実施するため以下の活動を行う。

(1) コンピュータ将棋システム「あから」の最新版開発

2015 年度にトッププロ棋士との対戦を行うために「あから 2015（仮称）」をどういう方式にするかコンピュータ将棋選手権や電王戦の結果などを踏まえて委員会で決定する。複数のソフトの多数決方式あるいは単独ソフト双方の可能性を検討する。

(2) プロ棋士との対局実現に向けた関連団体との折衝

2015 年度にトッププロ棋士との対戦を実現するために対局の実現の条件（トッププロ棋士の対局者，対局時期，対局数，対局時間，費用，スポンサーなど）を将棋連盟などと折衝する。仮に 2015 年度中にトッププロ棋士との対戦が実現しないことになった場合は今後の進め方を再検討する。すでに実力的には追いつき追い越しているとして何らかの宣言をして撤収する予定。

6.5 AI プログラミングコンテスト　［所掌：プログラミングコンテスト委員会］

本プログラミングコンテストは，インターネット産業の急速な発展によるエンジニアの質と量の確保がますます重要となる中，若い世代から将来第一線の研究者や開発者になりうる，また世界市場を舞台に活躍できる人材を育てることを目的に，2012 年度より「IPSJ International AI Programming Contest

"SamurAICoding"」を開催している。今年度で第4回目となる。

① より広い層の参加者を求めるため，次のような施策を検討・実施する。

・2014年度に引き続きCEDEC等の他のイベントと連携し，広く参加を呼び掛ける。

・IEEE-CS，CCF，KIISEと共催できるように働きかけ，参加を呼びかける。

・決勝戦は，3月の第78回全国大会と同会場での開催を予定する。

・名称は，「SamurAI Coding 2015-16」とする。

② 競技システムの信頼性・利便性の向上に努める。

6.6 各支部による支部連合大会，講習会等の開催　［所掌：各支部］

各支部において支部連合大会，講習会等を開催する。

7．実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

全会員に冊子で配布される唯一の媒体として「読まれる会誌」，「魅力ある会誌」を目指す。会員からのフィードバックを参考に，特集と連載中心の編集を行う。

7.1 会誌「情報処理」　［所掌：会誌編集委員会］

(1) コンテンツ

「読まれる学会誌」を目指して，会員サービスという観点からも，会員増という観点からも学会誌をさらに面白いものにすることを目指す。

① 著名人による巻頭コラムの継続，連載記事のバラエティを増すなど，幅広い読者に読まれる会誌を目指す（例：海外情報，人物紹介，自己啓発，教育関係など）。

② 毎年の季節を考慮した定番記事を工夫する。

③ 会員アンケートによる意見をフィードバックする。

④ 記事の補足情報をWebに掲載するなどオンライン版との連携強化，また過去の記事・論文を利活用するオンライン版別冊の企画などについて検討する。

⑤ 学生会員向けのサービス強化の一環として，各支部の学生会員（または若手会員）に記事を依頼する。

⑥ デジタルプラクティス，論文誌との連携を強化しメディアミックスを図る。

⑦ 小中高生向け配信用コンテンツについて検討する。

⑧ 女性編集委員増を委員会活性化，記事の魅力の増加，新たな企画提案につなげる。

⑨ 冊子体では伝えきれないような，体験型の情報提供・啓蒙に資するため，会誌に付録をつける。

(2) その他，広報・宣伝の充実および編集体制の改善

① 会誌への広告掲載，IPSJメールニュースへの広告掲載，Webサイトへのバナー広告掲載，カタログ同封サービスへの広告掲載の魅力を高め，総務財務委員会等と協力して広告活動に一層努力する。

② 別刷の購入を視野に入れた特集等の企画を積極的に行う。

③ 特集記事に関連した広告を掲載できるように広報活動を強化する。

④ グループウェアを活用し，今まで以上に活発な議論を行う。

⑤ 一般読者が読み物として気軽に読めるように，各記事ごとのページ数を減らす。フルカラーの必要がない記事についてはモノクロとするが，モノクロでも伝わる分かりやすい図表，記事を掲載する。

⑥ Apple NewsstandにおいてDP会誌電子版およびDPの販売・購読を促進する。

8．実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

論文誌の論文投稿数，採録数の増加と論文の質の確保を継続する。英文論文誌 Journal of Information Processing（以下，JIP）は基幹英文論文誌として育成・強化し，CVA 等のトランザクションも併せてインパクトファクタの取得を目指す。

8.1 論文誌（ジャーナル／JIP／トランザクション／デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） ［所掌：ジャーナル編集委員会］

1) 論文投稿数の増加に向けた取り組み，および採択数の増加に向けた取り組み
   ① 年間の論文採択数は，230 編以上を目標とする。
   ② 論文執筆のための心構えの広報の強化による投稿論文の質の向上を図るとともに，「べからず集」の徹底による査読の質の向上とそれに伴う採択率の安定・向上を目指す。
   ③ 研究会推薦論文制度や招待論文制度等を活用し，良質の論文の投稿を喚起する。
   ④ 論文誌編集委員会企画の特集号を継続する。
   ⑤ Google Scholar ランキング№1 維持を目指す。
2) 論文査読管理システムの運用と見直し
   ① 査読プロセス全体を見直し，可能な部分について簡素化する方向で編集体制の改善を検討する。
   ② 現在の査読管理システム(PRMS)から国際的に広く使われている商用システムへの移行を進める。
3) 電子化を有効活用した改善
   ① 論文誌関連の統計情報（例：ダウンロード数）の有効利用を検討する。
   ② 特集号等での実情を踏まえ，マルチメディア論文の受付，査読および掲載についての規定の整備をさらに進める。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 ［所掌：JIP 編集委員会］

1) JIP の海外投稿促進と国際化

Web of Science 収録基準を満たし，インパクトファクタ（IF）の取得に向け，citation を現在の 3～4 倍にすることを目指す。

   ① 年間論文採択数の目標を前年度から 5%増の 90 編とし，2015 年 1 月号からスタートした隔月刊行体制を確立する。管理運営体制をさらに整備し，2018 年 1 月からの月刊化を目指す。
   ② 研究会推薦論文の英語化を促し JIP に掲載するというパスを確立させ，良質の論文を呼び込む。
   ③ 編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させる。
   ④ 国際会議の優秀論文，著名な研究者の招待論文，国内の大規模プロジェクト等の成果論文を積極的に採録する。また，国際会議・海外の学会との連携等，JIP 独自の特集号を企画する。
   ⑤ インパクトファクタ取得に向けて，積極的な英語化のサポートを行って英語論文の投稿を促進する。JIP 掲載料の無料化キャンペーンは論文増の成果もあり見直しを行う。
2) 論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の英語での運用

国際化の一環として，論文査読管理システム上で論文の投稿，査読，オンライン会議，採否決定等一連の作業を英語で行うための環境整備，商用システムへの移行を進める。

(3) トランザクション（10 誌） ［所掌：各トランザクション編集委員会］

発行の安定性と永続性，ジャーナルとの協調，JIP との連携，購読数の拡大を目標に，トランザクション 10 誌合計で採択論文数 200 編以上を目指す。ジャーナルと同様に英文論文の投稿促進，および英文トランザクションのインパクトファクタ取得の検討も行う。また，トランザクションにおける論文査読管理の電子化の推進を行う。

情報関係学会英文論文合同アーカイブズ（IMT：Information and Media Technologies）の編集運営会議幹

事学会として編集および定期的刊行を実施する。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」 ［所掌：デジタルプラクティス編集委員会］

① 実務活動の論文誌「デジタルプラクティス」および「DP レポート」のプレゼンス向上と読者層・著者層の開拓をする。

② 社会的有用性を重視した査読基準の確立・共有と，実践に関する記述例の蓄積に努める。

③ IT 産業に従事し，論文執筆に馴染みの薄い方々に対して，「デジタルプラクティス」論文発表のメリット(自身の業績や研究成果を論文の形で半永続的に残すこと等)を訴求し，投稿を促進する。

④ 査読委員・編集担当の確保，モニター制度の充実，収益の改善など，安定した刊行のための体制整備に努める。

⑤ ソフトウエアジャパンや連続セミナー・短期セミナー等のイベント，他団体等との連携を推進する。

⑥ 会誌編集委員会，高度 IT 人材委員会との連携を強化する。

⑦ DP アワードを学会の正式の賞とすることを検討する。

(5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため，論文賞，デジタルプラクティスアワード等を贈呈する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ ［所掌：出版委員会］

新しい体制で既企画のメンテナンスと新規企画検討を行う。

8.3 歴史資料の保存・公開 ［所掌：歴史特別委員会，コンピュータ博物館小委員会］

① 現存している歴史的に価値のある機器の保存活動，「情報処理技術遺産」「分散コンピュータ博物館」の認定

②「コンピュータ博物館」の充実

③ オーラルヒストリーの編集・公開

④ 全国大会特別セッション「～コンピュータパイオニアが語る～私の詩と真実」の企画

8.4 電子図書館事業の推進 ［所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会］

① 2015年4月より企業向けサイトライセンスサービスを開始し，多くのユーザへのビジビリティ向上を図る。2014年度の倍の70件を目標とする。

② サイトライセンス機能のユーザビリティ向上等，会員からの要望に応え，情報学広場のサービスの充実を図る。

③ 研究会，論文誌編集委員会と連携し，マルチメディアコンテンツを含む論文の採録に取組む。

9．実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

ISO/IEC JTC 1 対応を主に，情報技術に関する国際規格の審議およびこれに関する調査研究，国内規格の審議などによる標準化活動を行う。より戦略的かつ健全な運営を行うために，標準化活動の重み付けのさらなる検討と，規格賛助員および委員会メンバのためのサービス向上に努める。

9.1 情報規格調査活動 ［所掌：情報規格調査会］

(1) ISO／IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO／IEC JTC1 直属の 17 の SC(全 20SC 中)および各 WG, SG(Study Group)，SWG(Special Working Group)の対応を行う。さらに国際提案準備と，JIS 原案作成を適宜行う。

① メディア符号化（SC29），デジタル記憶媒体（SC23），文字コード（SC2）などの重点領域の議長，幹事国役職引き受けを継続する。

② 2014年11月に設立されたJTC 1/WG9（ビッグデータ）とWG10（インターネットオブシングス）において，新しい規格の開発に貢献するとともに，日本の意見を反映する活動を行う。

③ 技術委員会の傘下に設置した情報技術小委員会を通じて，スマートシティズSGに対する対応を行うと共に，SWG on Planningにおける新規テーマの発掘への貢献と日本での新規領域における国際提案に結び付ける。

④ 議長，幹事国，コンビーナ，プロジェクトエディタ等を引き受けているものも含め，活動の優先度を見極め人的資源の集中化・重点化を図る。

⑤ ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA），電子情報技術産業協会（JEITA）などの協力を得ながら積極的に対応を図る。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

① 昨年度に引き続き規格賛助会費と権利の関係を健全化すべく，各委員会活動への参加形態の整理と見直しを行う。

② 技術委員会の役割を再確認することを含め，委員の役割と構成の見直しを行う。

(3) 標準化活動の支援と広報

① 昨年に引き続き，新規事業としての標準化セミナー開催を実施し，国際標準化におけるホットトピックスや各委員会における活動内容を紹介することで，国際標準化に対する意識を高め，参加者を募る。

② 広報活動を強化し，ITSCJの存在と活動に関する認知度を高める。

③ 昨年に引き続き，システムのセキュリティ強化と委員会活動の効率化推進。

１０．実施事業７：国際活動（定款第４条１項５号および２号）

研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催，共催し活動の活性化を図ると共に，海外学協会との連携を推進する。

(1) International Federation for Information Processing（IFIP）活動への参加　［所掌：IFIP委員会］

① IFIP日本代表ならびにTC-Chairの総会General Assembly（GA）・理事会Councilへの参加

② 各TC日本代表のTC-meetingへの参加と IFIP活動周知の活性化

③ IFIP IP3の活動に参加し，CITP資格の国際的相互認証の仕組みを構築

④ IFIPの役員会を日本に招致（2016年3月予定）

(2) IEEEならびにIEEE-Computer Societyとの連携・協力

① The 39th Annual International Computer Software & Applications Conference（COMPSAC2015）への技術協力

日程：2015年7月1日（水）～ 5日（日），場所：Taichung, Taiwan

② 全国大会でのIEEE-CS会長招待講演を実施

③ IEEE Computer Societyとの姉妹学会覚書を継続するとともに，会員向けの連携サービスを検討

(3) 海外学協会との連携・協力

① The Korean Institute of Information Scientists and Engineers（KIISE）との連携・協力および双方の全国大会での会長の交互招聘・招待講演を実施する（2015年度は当会会長がKIISE大会へ招聘の予定）。China Computer Federation（CCF）ともMOUを締結し関係を強化する。

② 下記の海外学協会との協力関係を継続する。

・Association for Computing Machinery (ACM)

・Computer Society of India (CSI)

・他の学協会とも協力関連構築を模索

③ アジアの関連学会である中国CCF(China Computer Federation)，韓国KIISE (The Korean Institute of Information Scientists and Engineers)，インドCSI (Computer Society of India) との中長期的な交流に向けて意見交換を進める。

④ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加。

⑤ 日本に留学生を多く輩出しているアジア地域などの国々の情報系学会との共同シンポジウムなどによる連携の機会を検討し，新たな取り組みを企画する。

(4) 国際会議

COMPSAC2015の他，下記の国際会議を開催する。

・The 10th International Workshop on Security (IWSEC2015)
2015年8月26日～28日，東大寺総合文化センター（日本）

１１．その他：関連学協会等との連携および協力（定款４条１項６号）

目的を同じくする学協会との連携および協力を行う。情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）等とこれまでの協力関係をさらに強化する。

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会に参加し，関連学協会との協力連携を図る。日本工学会の主催で2015年11月29日～12月2日に国立京都国際会館で開催予定のWECC2015世界工学会議にも協力をする。また，工学系6学会会長連携会議にも参画し，工学連携に取組む。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前6項参照）」ほか，研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに，若手研究者の会を通じて，日本学術会議の若手アカデミー委員会に参加する。

11.2 会議の協賛後援等

関連学協会等からの要請に応じて適宜，会議の協賛後援等を行う。

１２．法人運営

会員の視点での会員サービスのあり方を検討し，必要に応じて会員制度および学会情報システムの見直しを実施する。

12.1　入会促進

(1) 新規会員の獲得と会員減の防止

① 各活動において学会の価値向上に取り組み，新規会員の獲得に努める。

② 理事を中心に新規会員獲得の地道な勧誘と企業への働きかけを継続するとともに，引続き，退会要因の分析による退会防止に努める。

③ 会費の口座引落，クレジットカード決済等の推進により「滞納→資格喪失」を防止するよう継続して対応する。

(2) 学生会員の獲得と育成

① ジュニア会員制度（試行）を通じて若年層に学会活動を広く周知し，学生会員の獲得を促進する（目標 2,000 人程度）。

② 学生会員の１研究会無料登録を継続し，研究会活動への参画を通じて学生会員の育成に努める。

③ 研究会と支部の協力を得て，学生のコミュニティを作り，自発的な参加を促す。また，学生・若手向けセミナーの企画開催など，学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努める。

12.2　政策提言活動の推進

政策提言委員会は，学会各種委員会と連携して，日本学術会議の関連活動，関連省庁との意見交換体制を継続し，国の政策および方針について学会としての意見を積極的に提言・情報発信することにより，国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して，学会の一層のビジビリティ向上に繋げる。

12.3　震災復興関連の取り組み

昨年９月に工学系６学会会長連携会議の主催で開催した「四国巨大災害危機管理フォーラム」（高知市で開催）の続編として FIT2015 第 14 回情報科学技術フォーラム（9 月に愛媛大学で開催）で災害に関するセッションを企画開催する。

12.4　運営体制の充実・改善等

(1) 新世代発想の学会運営への取り込み

新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」の活動を推進し，新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。昨年度提携したドワンゴ社との連携の次のステップを検討し学会のビジネスモデルに繋げる。イベント「IPSJ-ONE」を継続的に企画し，発展させる。

また，若手研究者の会からの意見を学会運営に反映できるよう，引続き，企画政策委員会・政策提言委員会・調査研究運営委員会などと連携して対応する。

(2) 寄付の募集

終身会員や仕事をリタイヤされた個人及び企業の皆様に幅広く寄付の御願いをし，学会活動の更なる活性化を図っていく。寄付は現金に加えて，情報技術に関わる有形無形の資産，ボランティアで提供いただける役務なども含む。

(3) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事を中心に，学会運営における長期的ビジョンの継続が可能となる体制を整えていく。

(4) 中長期計画を踏まえた運営改善

「魅力ある学会」に向け，学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ，第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て，引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。

(5) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

① 学会 Web の充実の他，Facebook，Twitter， 情報処理学会公式ニコニコチャンネル，Newsstand などソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進する。

② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介，IPSJ メールニュースの内容充実に継続して努める。

③ 諸活動データの収集・分析により，その評価・改善を継続する。

(6) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

2014 年度に続けて，会員サービス向上のために会員制度の見直し，および業務改革を検討し，実現に必要な学会情報システムの見直しと整備を推進する。

12.5 その他表彰等

功績賞，学会活動貢献賞，感謝状の贈呈のほか，フェロー認定，シニア会員認定，情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行う。学会の賞については積極的に企業のスポンサーを開拓する。

以上

【付表１：研究会・研究グループ】

［コンピュータサイエンス領域：研究会（10）（括弧内は英略称）］

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），システム・アーキテクチャ※（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システムとLSIの設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB）　各研究会

［情報環境領域：研究会（17）（括弧内は英略称）］

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），グラフィクスとCAD（CG），情報システムと社会環境（IS），情報基礎とアクセス技術（IFAT），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），ドキュメントコミュニケーション※（DC），モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム※（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS），ユビキタスコンピューティング（UBI），インターネットと運用技術（IOT），セキュリティ心理学とトラスト（SPT），コンシューマ・デバイス＆システム（CDS），デジタルコンテンツクリエーション（DCC），高齢社会デザイン*（ASD）　各研究会

［メディア知能情報領域：研究会（12），研究グループ（3）（括弧内は英略称）］

自然言語処理（NL），知能システム（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO），教育学習支援情報システム（CLE）　各研究会

ネットワーク生態学（NE），会員の力を社会につなげる（SSR），アクセシビリティ*（AAC）　各研究グループ

※名称変更　＊新設

【付表 2：シンポジウム・ワークショップ等】

シンポジウム等名（主催研究会）	開　催　日	場　　所
ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム (HPCS2015) (HPC)	2015. 5.19(火)～20(水)	東京大学
マルチメディア，分散，協調とモバイル (DICOMO 2015) シンポジウム (DPS, GN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2015. 7.8(水)～10(金)	ホテル安比グランド&タワー
画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2015) (CVIM)	2015. 7. 27(月)～30(木)	ホテル阪急エキスポパーク
情報教育シンポジウム (SSS2015) (CE, CLE)	2015. 8.17(月)～19(水)	境港マリーナホテル
DA シンポジウム 2015 (SLDM)	2015. 8.26(水)～28(金)	山代温泉 ゆのくに天祥
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 (SES2015) (SE)	2015. 9. 7(月)～ 9(水)	慶應義塾大学
エンタテインメントコンピューティング 2015 (EC)	2015. 9.25(金)～27(日)	北海道大学
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPS)	2015.10. 7(水)～ 9(金)	雲仙富貴屋
コンピュータセキュリティシンポジウム 2015 (CSS2015) (CSEC, SPT)	2015.10.21(水)～23(金)	長崎ブリックホール／長崎新聞文化ホール
組込みシステムシンポジウム 2015 (ESS2015) (EMB)	2015.10.21(水)～23(金)	早稲田大学
SOUPS 勉強会 (SPT)	2015.10.	(未定)
ゲームプログラミングワークショップ (GPW2015) (GI)	2015.11. 6(金)～ 8(日)	箱根セミナーハウス
コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2015) (OS)	2015.11.19(木)～20(金)	学術情報センター (予定)
グループウェアとネットワークサービスワークショップ 2015 (GN)	2015.11.19(木)～20(金)	(未定)
WebDB フォーラム 2015 (DBS)	2015.11.	芝浦工業大学 (予定)
高齢者の脳・心・環境と個人情報の利活用(仮) (ASD)	2015.11.	(未定)
インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2015) (IOT)	2015.12. 3(木)～ 4(金)	(未定)
災害コミュニケーションシンポジウム (IS, IOT, SPT)	2015.12.	(未定)
情報アクセスシンポジウム(IAS)2015 (IFAT)	2015.12.	国立情報学研究所
情報技術を活用した認知症ケア技法のスキル獲得と客観評価(仮) (ASD)	2015.12.	(未定)
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2015) (CH)	2015.12.	(未定)
高度交通システムシンポジウム 2016 (ITS)	2016. 1.15(金)	日本科学未来館
ウィンターワークショップ 2016 (SE)	2016. 1.	(未定)
Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI)2016 (ARC, OS, HPC, PRO)	2016. 1.	(未定)
インタラクション 2016 (HCI, GN, UBI, DCC, EC)	2016. 3. 2(水)～ 4(金)	科学技術館

情報処理学会中長期計画　2015年度版

情報処理学会　中長期計画			2014年度				2015年度				2016年度				2017年度			
項目	方向性	キーワード	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
学会誌	面白い読み物	特集から連載へ 収支改善	▲読まれる学会誌 ▲新表紙(月替わり)	▲編集長交代　▲季節感を考慮した編集・発行 ▲新ビジネスモデル(DM、企業連携)		▲女子部連載・イベント ▼毎号100頁以内で編集	△読まれる学会誌 △新表紙	△新企画・新連載等 △女性編集委員の活用	△季節感を考慮した編集・発行 △100頁以内の編集・カラー頁削減	△広告拡大								
	ファンの拡大	会員拡大 会員繋ぎ止め	▲オンライン別刷・別冊 ▲Web掲載、オンライン版との連携	▲新企画・新連載等 △記事広告等の検討	▲著名人巻頭コラム	△学生・若手記事 ▲Nessstand販売	△会員増への期待 △小中高生向け記事	△別刷り販売 △Nessstand販売拡大	△著名人巻頭コラム △Web掲載、オンライン版との連携	△学生・若手記事 △ジュニア会員向け記事	△電子書籍化検討				△電子書籍化検討			
論文誌	投稿数増 採録数増	論文投稿件数 論文採録数増	▲新編集方針の開始(予定) ▲IMTよりJIP論文除外	△招待論文　▲特集号　▲推薦論文取組強化　▲JIP/TRAN連 ▲目標は年間250編　△マルチメディア論文の受付 ▲「べからず集」の徹底	▲査読プロセス/システムの見直し　▲全国大会イベント企画		△英語化サポート △編集委員会企画の特集号 △新査読システム移行	△招待論文 △Asia連携(CCF,KIISE?)	△サーベイ論文 △マルチメディア化特集号	△標準化論文　△GoogleS 断トツNo.1 △目標JJ320編、TRAN200編 △学生・若手特集号　△編集委員会企画の特集号 △全国大会イベント企画								
	IF取得	海外からのビジビリティ グローバル化	△海外編集者増 ▲JIP論文増　▼Cite up	▲標準化論文の募集 △海外で広報活動	▲国際会議連携 △海外学会連携	▲TRAN CVA等で挑戦 △論文査読システムの英語運用	△IF再申請　△CitationUP ▲JIP隔月刊	△無料キャンペーン見直し △海外学会連携	△CVA　Springerより発行 △国際会議連携　△科研費申請	△CitationUP 目標0.5?	△TCVA　IF取得？				△IF再申請？			
調査研究	研究会活性化	制度見直し 新研究分野	▲ロードマップ策定(2013.12) ▲領域プロジェクト ▲SIG連携シンポ	△調査研究の役割強化(政策提言、国際連携、政府・学術会議連携 △研究の長期グランドデザイン、学術大型研究計画		▼国際会議の積極開催	△新研究会、新研究グループ △収支の見える化・収益up	△女性委員倍増　△調査研究の役割強化(政策提言、国際連携、政府・学術会議連携 △研究の長期グランドデザイン、学術大型研究計画		△新規国際会議主催	△新フロンティアの開拓？				△研究会の見直し？			
	参加者増	魅力度アップ	▲参加者・登録者増 ▲日本工学会震災復興シンポ	▲チョコット作戦　参加者増　収益アップ ▲イベントのビデオ配信			△参加者・登録者増 △日本工学会シンポ	△SIG連携シンポ △積立金活用Proj	△チョコット作戦　参加者増　収益アップ △FITイベント企画	△企業表彰スポンサ △WECC2015@京都								
事業 技術応用	イベント活性化	大会アウトプット増 FITアウトプット増		▲チョコット作戦　参加者増 △チョコット作戦　参加者	▲非会員参加者に会員資格 ▲FIT2014 つくば(筑波大	▲関西開催（京大）IPSJ-ONE・ニコ生放送/情報処理祭り ▲女子部イベント　▲大会で情報保障、託児サービス			△FITの意義、査読等見直し △FIT2015 愛媛大開催(目標1600人)	△チョコット作戦　参加者増 △チョコット作戦　参加者増			△XX開催 △富山大開催				△信学会100周年
	企業連携イベント			▲CEDEC		▲情報処理祭り(リクルート)		△CEDEC	△企業連携イベント	△情報処理祭り								
	ITプロフェッショナルコミュニティ構築	ITフォーラム SWジャパン		▲活動状況報告・評価 ▲有料化、PC・実行委の分離の定着	▼新フォーラム発足 △非会員へのリーチ		△活動状況報告・評価	△ITダイバーシティ見直し	△新フォーラム発足	△集客、非会員へのリーチ								
		連セミ・短セミ DP	▲モバイルとクラウド時代のIT新潮流 ▲認知度向上、投稿・掲載増	▲DPオンライン化(電読)、冊子限定配布	▲若者向け短セミ △査読基準の確立	▲未踏連携(連セミ)　▲標準化セミナ ▲Newsstand配信 ▲DPレポート創刊	△編集長交代 △認知度向上、投稿・掲載増	△連セミ集客900人	△若者向け短セミ △Newsstand拡大 △DPレポート拡大	△標準化セミナ							△評価、見直し？	
		認定情報技術者(CITP)	▲個人認証本格化、認証目標300人(46人->28人)		▲企業認証試行(5社、300人？)		△企業認証本格化		△CITPコミュニティ立上	△個人300人、企業10社　合計4000人					△学会内で別組織化？			
		技術応用運営委員会		▲関係団体との連携強化、共同イベント開催、会員増　リクルート他		▲リクルート 情報処理祭	△各活動の連携強化、収益力アップ		△ITプロフェッショナルコミュニティの拡大									
規格 標準化	時代変化への対応	制度改革	▲委員会活動への参画形態の整理と見直し △テレコンファレンス環境の整備実施		▲システムの情報セキュリティ対策、クラウド化の推進	△新規標準化課題への予算措置の検討	△幹事国獲得に向けた事務局体制の準備 △企業からの出向者を可能とするスキームの検討		△関連標準化団体との連携策に関する検討									
	活動の活性化	知名度向上	▲Webサイト・コンテンツ充実による情報発信強化の実現 ▲戦略的標準提案のための委員会活動		▲Web改善による委員会活動効率化の推進 ▲新事業としての標準化セミナー事業の開始		△主要国との連携策に関する検討 ▲活動アピールの手法としてのプレス発表の施策検討		△委員会構成におけるユーザ貢献の検討									
その他	政策提言	夢ロードマップ・マスタープラン対応 パブコメ・声明対応	▲声明・提言	▲パブコメ対応	△学会ロードマップ(3次) ▲長期的研究のグランドデザイン	▲学術会議への提案	△声明・提言		△長期的研究のグランドデザイン △パブコメ対応									
	教育活動	人材育成ビジョン J17(J07後継カリキュラム)	▲J07普及活動　▲J17取組開始		▲教員免許更新講習 ▲JABEEソウル協定対応(費用措置決着) ▲会誌連載「ぺた語義」「ビブリオ・トー ▲情報入試		△J07普及、J17策定	△教員免許更新講習会 △JABEE認定受託	△会誌連載「ぺた語義」「ビブリオ・トーク」	△情報入試　△教員免許更新講習会2回目								
	学生会員育成	学生会員を2500名以上に 昇格者を400名以上に		△支部との連携	△拠点校での学生コミュニティ ▲トライヤル会員目標1000人(XXX人)		△ジュニア会員制度への移行		△ジュニア会員2000名 △学生コミュニティの立上									
	デジタルコンテンツ事業	新たな成果発表形態 新ビジネスモデル	△マルチメディア対応 ▲YouTube、Newsstand開始	▲新たな形の成果発表・情報発信の推進(ニコニコ提携推進中) ▲動画著作権問題			△ニコニコ提携・公式チャネル △動画アーカイブ		△電子図書館マルチメディア対応 △アーカイブの有料化									
	電子図書館		▲情報学広場機能拡充(11月) ▲大学向けサイトライセンス開始	▲企業向けサイトライセンス検討　▲NIIとの協議会	△大学向けサイトライセンス　契約倍増		△マルチメディア対応 △企業向けサイトライセンス開始(目標70件)	△NII協議会	△電子図書館機能拡充 △Google Scholar ダントツNo.1		△NII,J-Stage統合？							
	コンピュータ将棋	トップ棋士対局、青少年PR		▼あから最新版開発	▼シンポジウム開催	▲非会員・青少年への夢	△あから2015検討	△将棋連盟と折衝	△トップ棋士との対戦	△勝利宣言、取組終了？	△次なるフロンティアは？							
	AIプロコン Samurai Coding	世界規模開催 300チーム、1000人規模	▲SamurAI Coding2014-2015 開催 ▲イベントアナウンス	▲ICPC　△CEDEC	▲予選・参加100チム超 ▲イベントスポンサ獲得	▲決勝戦@全国大会 ▲次年度計画		△イベントスポンサー獲得	△予選 △KIISE,CCF招致	△決勝戦@全国大会								
	新生代企画委員会 IPSJ-ONE		▲若手主導の発想、ニコニコ提携、IPSJ-ONE			▲ドワンゴとの提携	△若手主導の発想 ▲IPSJ-ONE		△ニコニコ新ビジネスモデル △新企画	△IPSJ-ONE								
	長期戦略	グローバル連携 長期課題				▲CCF　△CCF MOU? △IEEE-CS SA	△学会収益構造	△グローバル化対応	△CCF △情報システム、事務局体制	△KIISE △電子書籍化	△学会の長期ビジョン？							
	女性活用	女子会員比率向上 女子の活動活性化					△正会員6%、学生会員13.6%		△イベント企画	△目標7%		△イベント企画	△目標8%				△イベント企画	△目標10%
事務局	会員サービス		▲会員増299人　▲ビデオ配信	▲電子図書館機能拡充(11月) ▲託児所サービス、情報保障(全国大会)	▲新会員サービス(ジュニア会員) ▲ジュニア会員	△シニア会員拡大	△会員増XXX人		△ニコニコ公式チャンネル	△ジュニア会員2000人	△新サービス？				△新サービス？			△目標10%
	情報システム		▼セキュリティポリシー、ガイドライン継続	△学会システムリニューアル(延期)			△優先順位見直し △セキュリティポリシー、ガイドライン見直し	△学会システムリニューアル	△VM移行、システムエンハンス	△MSリニューアル △ジュニア会員サポート								
	学会システムWG		▲SFDCに転換　▲会員との双方向コミュニケーション基盤 ▲フェーズ0		▲情報基盤構築・名寄せ ▲フェーズ1	△フェーズ2？	△情報基盤構築・活用		△情報基盤構築・活用 △フェーズ3？									
	学会Web		▲ユーザビリティ改善(着手)	△SEO対策	▲トップページ改良 △SNS連携？	▲メディア露出 ▲非会員へのリーチ	△英語ページリニューアル △新会長対応	△SEO対策　△ユーザビリティ改善	△SNS連携？	△メディア露出 △非会員へのリーチ								
	学会組織		▲新世代理事の取組(全国大会企画、ニコニコ提携) ▲長期戦略理事の取組(海外学会連携、刊行物の冊子問題、次世代ビジネスモデル)			△ニコニコ提携　▲IPSJ-One@全国大会 ▲CCF連携		△女性理事枠拡大 △女性委員、女性会員増			△事務局後継者育成							
	学会運営		▲寄付の募集　▲総会@理科大　微分解析機お披露目 ▲やんちゃ理事・理事に権限移譲	▲シニア会員(261名)	▼セキュリティガイドライン	△ニコニコプレス発表	△寄付募集　△総会 IPSJコンベンション　△Aボード △シニア会員拡充(500人増 △新会長対応		△ジュニア会員制度 △セキュリティガイドライン						△事務局長交代			
震災復興	震災復興支援			▲Aボード　▲工学連携			△会長連携シンポ	△Aボード　△FITでイベント開催										
			▲日本工学会シンポ			復興4周年	△日本工学会シンポ			復興5周年			復興6周年					復興7周年
					▲WECC2015対応(高知でシンポ)				△WECC2015									